

「エンジン故障の防止に入念な『入港後手入れ』の励行！」

ディーラーの協力により、エンジンの適切な維持管理方法等に関する研修を実施しました。

(H27/6/10更新)

神戸海上保安部では、プレジャーボートなどの小型船舶における海難のうち、機関故障に至る原因を理解のうえ、マリナー愛好家への啓発活動を行うにあたり、マリナーエンジンの整備点検研修を企画し、ヤマハ発動機(株)西日本営業所の協力を得て、研修を実施しました。

講師となった同社社員からは、環境保護の観点からエンジンの構造が2ストロークエンジンから4ストロークエンジンに切り替わっており、排気温度が高い4ストロークエンジンについては、機関故障を防止するために『入港後の手入れが重要なポイント』であるとし、具体的な事例として、冷却システムで海水が凝固し金属部の腐食が進行するため、航行後は清水による入念な機関洗浄が必要である、ほか

- ・ 電気制御部分は清水洗浄できないので、防錆材を十分に塗布し、海水の付着・塩分の結晶化を防止する
- ・ 法定検査のほか、ディーラーによる定期的な点検整備を依頼するとともに、航行中に気付いた異常や不良箇所は、速やかに修理を依頼する

などの説明を受け、これらのポイントを推進することは機関故障の発生を抑える効果があり、エンジンの寿命を長持ちさせることを再確認しました。

昨年行ったアンケートでは、エンジンが故障してもどこが悪いのか・何をすればいいのか、理解されていないマリナー愛好家が多く存在していることを把握しており、神戸海上保安部では燃料やオイルの確認などの『発航前点検の励行』とともに、今回の研修で得た成果をもとに『入港後手入れ』によって機関の良好な状態が長く続き、海難の予防に役立つことを強調し、海難発生未然防止に取り組むこととしますので、海上・マリーナなどで海上保安官が訪船した際には、ご協力をよろしく願います。

添付写真1 研修中の神戸海上保安部職員



添付写真2 研修中の神戸海上保安部職員

